



特定非営利活動法人
おもしろ科学たんけん工房

たんけん通信

青少年のための

科学の祭典

神奈川大会

県立青少年センター 主催

平成23年8月7日(日)10:00~15:00

おもしろ実験ショー；科学工作など

会場：紅葉坂 県立青少年センター

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

桜木町駅から徒歩 10分

おもしろ科学たんけん工房も出展
するので、ぜひ見に来てください。

2010年5月31日(火)午前、かながわ県民センター（横浜西口）の会議室で、特定非営利活動法人おもしろ科学たんけん工房の、第9期(2010年度)通常総会が開催されました。

第9期(2010年度)通常総会終了

総会では、2010年度の事業報告が行われ、収支計算書を含む決算書と事業報告者が承認されました。

前年度決算と比較した 収支計算書を2ページに掲載しました。また、2002年のスタートから9年間のおもしろ科学体験塾への参加児童数の推移も、表とグラフで示しました。

⇒ 2ページをご覧ください。

なお、総会で承認された詳細な収支計算書と事業報告書は、横浜市の所轄部署に提出し、公開されますので、どなたでも、閲覧することができます。また、市が管理するホームページでも検索閲覧が可能です。

所轄部署：横浜市市民局 市民協働推進部

http://cgi.city.yokohama.lg.jp/shimin/npo-kensaku/npo_search.php（現在は 09年度の情報をPDFファイルで見ることができます）

科学体験活動推進スタッフ養成研修

今年度第1期研修が始まりました。

実習オリエンテーション：6月18日(土)

集合研修： 第1回 6月26日(日)

第2回 7月3日(日)

会場： 藤沢市市民活動推進センター

実習は 7月中旬から9月中旬までの予定。

実習会場は藤沢市内中心

2011年度 第1期 養成研修がスタート

藤沢市教育委員会後援；



おもしろ科学たんけん工房の会員や、活動スタッフの
推移状況（事業報告書から抜粋）

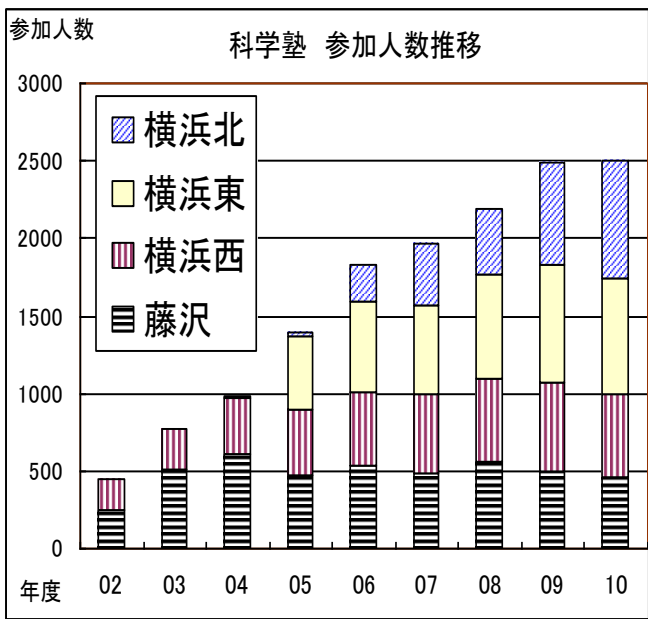
時点	内訳	正会員 (休会者を 含む)(a)	準会員 (b)	(a+b)の内 実働 メンバー
2002/ 4/ 1		17	4	12
2003/ 3/31		27	8	21
2004/ 3/31		36	15	37
2005/ 3/31		37	20	43
2006/ 3/31		41	51	75
2007/ 3/31		60	70	112
2008/ 3/31		70	71	125
2009/ 3/31		110	39	137
2010/ 3/31		132	27	144
2011/ 3/31		136	37	150

(a)(b)には非実働の会員も含まれます。

2010年度 収支決算の概要 対比 前年2009年度 収支決算の概要

Table with 8 columns: 科目, 金額(千円), 内訳金額, 科目, 金額(千円), 内訳金額. Rows include 収入 (会費・入会金収入, 事業収入, etc.) and 支出 (事業費支出, etc.).

Table with 11 columns: 年度, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 10, 累計. Rows list regions: 藤沢, 横浜西, 横浜東, 横浜北, 合計.



おもしろ科学体験塾に参加した児童数の地域別推移表[上]と、推移グラフ(左)

当初 2会場でスタートした「おもしろ科学体験塾」ですが、ごらんのとおり、4地域で15会場を超えて拡がりました。子どもたちが自転車でいけるところに、あまねく科学体験塾を！という願いも決して単なる夢ではありません。

参加児童数 9年間累計 1万4,500人を超えました。



おもしろ科学たんけん工房 藤沢地区グループ便り No.17

2011年、おもしろ科学たんけん工房の活動は10年目を迎えました。

「理科好きの子どもを育てたい。」

この願いを実現するために私たちは科学のおもしろさを伝える活動を続けてまいります。

10年目を迎え、藤沢地区は「見よう！さわろう！音のせかい」と題して鵜沼中学の体験塾から活動をスタートしました。

参加してくれた子供たちは音のしょうたいにせまろうと主任指導員の島田さんがおこなう実験に興味深そうに見入っていました。音が振動によって耳に伝わることを自分の手でふれたり、見たりすることで体験できたようすをうれしそうに話している姿は私たちメンバーの大きな励みにつながります。

私の作ったモーターは回るのかなあ？

どこから音が出ているのかな？



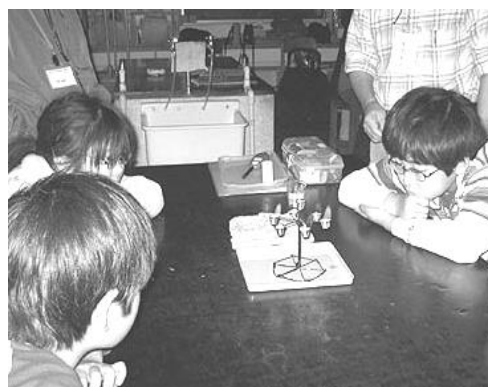
自分で巻いたエナメル線のコイルでモーターを組立てる子どものようす。(写真 上)

春の穏やかなお天気の中、鵜沼中学では「七色の炎を楽しもう！」の体験塾が開催されました。こちらではいろいろな金属(きんぞく)で炎に色をつける実験をおこないました。アルコールに溶かしたいろいろな金属の化合物を燃やした時にでる金属特有の色の炎に見入る子どもたちの瞳も同じように輝いていました。「リチウム、ストロンチウムといった金属の名前が初めて子供たちから聞くことができました。」主任指導員の高橋さんも満足そうでした。この実験は火や薬品を使いますので、安全に実験が行えるよう、また、子供たちが作ったキャンドルスタンドと金属を溶かした溶液を用い、ご自宅で安全に実験していただくために、参加児童全員の保護者にご来場をお願いし、実験の仕方や注意事項を学んでいただきました。

音のせかい 実験に取り組むこどもたちの一場面。(写真 下)



4月23日(土)湘南台高校では、磁石と電気のふしぎな関係や、モーターがなぜ回るかを実験しながら勉強しました。電気の流れる向きやモーターの回る仕組みを知ることができた子供たちは、私たちの生活に欠かすことのできない電気やモーターをより身近なものに感じてくれたのではないのでしょうか。そして、楽しみにしていた簡単で良く回る「モーター」作り、ごちなさそうに自分で巻いたエナメル線で作ったモーターが回った時の笑顔に「自分でできたよ！」って書いてありました。実験の際には、ころがる電線、電気ブランコ、簡単モーターなど、おもしろ科学ならではの工夫がいっぱい詰まったわかりやすい実験装置が大活躍でした。



違った色で燃える炎を不思議そうに見つめる子どもたち(写真 上)

※各写真は当日撮影したものとは限りません。

おもしろ科学体験塾は、「やってみよう！考えてみよう！」をテーマに子どもたちの科学する心が芽生えることを願っています。

取材と記事制作：藤沢地区グループ：品田、郷

横浜東地区グループ便り

フォーラム南太田で「みなみ塾」開講

おもしろ科学たんけん工房開設以来の
念願であった、南区でのおもしろ科学体験
塾が実現しました。これは、フォーラム南
太田(男女共同参画センター横浜南)との
協働事業決定によるものです。その第1回の「にじいろの
涙」が、6月11日行なわれました。



南区内の小学校を訪問して工房と体験塾の紹介をした
ためか、体験塾への関心が高く参加申し込みが51名にな
り、館のご理解により午前・午後2回の開催となりました。

当日は、館長の岩船さんにご挨拶をいただき、安田代表
のみなみ塾にける思いを話して、体験塾がスタート。

参加児童
および参観者
の満足度も高
く、上々の滑
り出しとなり
ました。



(島田記)

(みなみ塾開設でご挨拶の岩船館長)

はまぎん こども宇宙科学館で教室再開



たんけん工房は8年前より科学館で実験
工作教室を夏休みを除き毎月実施させて頂
いています。

科学館と工房の共催で他の体験塾とは異なり募集関係
は科学館、教室の実施は工房が行なっています。リハや本
番の会場、使用する備品等便宜は図って頂いています。

4月1日より運営管理する指定管理者が変わり、引き継
ぎ、準備等で4、5月は教室を休みましたが6月より再開
する事に成りました。

新たな工房担当窓口の「事業課長 岡野麻衣子様」より
岡野さんの抱負をご投稿頂きました。

はじめまして。はまぎん こども宇宙科学館の岡野で
す。どうぞ 宜しくお願ひ致します
皆さんが科学館に来て「楽しかった!また来たい!」と
思ってもらえるようなご家族で楽しめる科学館にした

いと思っております。

いよいよ科学館にて今年度第1回目となる「気体の力
のおもしろ実験と工作〜気体のふしぎに、これはびっく
り〜」が開催されます。実は、昨日もリハーサルだった
ので少し覗いてみました。「ここを改善してはどうだろ
う?」とか、「こうした方が分かりやすいのでは?」など
スタッフの皆さんが真剣に予備実験をしていました。そ
して、皆さんの手元をみると・・・おお!なにやら楽し
そうなものが出来上がってました!

私も科学工作教室や実験教室をやりますが、材料だけ
あればできるかということ、そうではありません。たんけ
ん工房の皆さんのように、事前に予備実験をしっかりし
て、体験する子供たちが安全に楽しくきちんと学ぶこと
ができるかを何度も確認する必要があります。たんけん
工房の皆さんのリハーサルをみて改めてスタッフの皆
さんの熱意を感じた一日でした。これからのたんけん工
房教室でも、みなさんの熱意に負けないよう、科学館も
頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願ひ
申し上げます。

コラム「遅刻せず・欠勤せず・仕事せず」

田島 紘一郎

近頃テレビを見ているといやになってくる。タイトルの
「遅刻せず・・・」は公務員が出世するための条件だ
という。この官僚体質と既得権固執体質の政治とが長年仲
良く手をつなぎ、膨大な借金と国民無視の無駄使いの膿
が、3.11以降一気に出てきた。さらに性懲りも無く民
の懐をむしりとする大增税策を練っている。

なんてことを考えカムカと腹を立てていると、キリ
がないし、健康衛生上よくない。

そこで、気分一新、湯船に浸りながらふと口ずさんだ
童謡「雨降りお月さん」。歌詞をкаろうじて覚えていた
が、どんな情景でどんな状況下なのかがどうもつかめな
い。何方か科学的に(いや文学的に)解説していただ
けると少しは気が晴れる。

「雨降りお月さん」野口雨情作詞・中山晋平作曲

雨降りお月さん 雲の蔭(かげ)

お嫁にゆくときゃ 誰とゆく

一人で傘(からかさ) さしてゆく

傘(からかさ)ないときゃ 誰とゆく

シャラシャラ シャンシャン 鈴つけた

お馬にゆられて めれてゆく





横浜北地区グループ便り



北グループの奮闘を伝える「北便り」。まずは恒例のイベント報告と、会場紹介です。

神奈川みなとフェスタに参加しました

5月1日 於：神奈川水再生センター・入場者4000人
伝えるメッセージは『作ってみよう、遊んでみよう、たんけん工房はおもしろいでしょ!』出し物はストロートロンボーン(一番人気)、ブーメラン、ストロートンボ、初登場の花風車でした(390個完売!)

強風の中、雨が降り出しそうな曇天でしたが、午前中から来訪者が途絶えることなく(声かけに作品を持っていない子を探してしまったよ)、子どもたちの笑顔とスタッフの経験豊富な(ストロートロンボーンの仕組みの問いかけ有り)親切で丁寧な案内(ホッチキスは一緒にね)のおかげで、楽しい1日となりました。狭いながらブース前ではブーメランやストロートンボの飛ばし方を伝授しました。



(津島・熊谷記)

都筑地区センター紹介

都筑地区センターは地下鉄グリーンライン都筑ふれあいの丘駅から徒歩3分の処にあります。工芸室、料理室、大小の会議室、体育館と設備も整っており、この地域の中心的な活動の場として期待されます。

この地域は港北ニュータウンの中心地にも近く、子どもたちもたくさんいます。近隣の小学校では1学年5,6クラスある所もめずらしくありません。

ここで当工房が活動を始めたのは数年前からで、地区センターとの共催ということで、科学塾の受付業務は地区センターにまかせきりでした。その為か応募者がいつも少なく、定員に達しないこともしばしばでした。(↗)

地区センターの人手不足もあり、今年度から受付業務を私達で引き受けることになりました。学校訪問、ちらしまきを積極的に行ってみたところヘリコプターの応募者は何と137名にもなりました。午前、午後と2回の科学塾開催で何とか乗り切ったものの、問題点もいろいろかびあがってきました。

よりよい科学塾開催に向け、これからも手探りで努力してゆきたいと思っております。(久保田尚子)

最後に、東日本大震災に遭われた皆様に心から、お見舞いもうしあげます。はまっ子(横浜市立小学校の放課後支援施設)事務局を担っている会員から、震災当日の子どもたちの様子を語っていただきます。

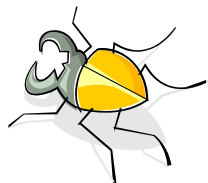
3月11日! 小学校は? はまっ子は?

「地震!」「机の下にはいって!」「ストーブ消して!」
・・・はだ寒い週末、その日はやってきました。小学校では、日頃から災害に備えて、様々な訓練を行っています。その中に、子どもたちが学校、はまっ子両方にいる時間帯の災害時を想定した合同避難訓練があります。14時46分は、まさにそうしたタイミングでした。

強い揺れの中、退避行動をとりながら、頭の中には、避難手順が浮かびます。揺れが収まって、校内放送がはいったら、指示にしたがって、校庭に避難、点呼・・・。校庭で全体点呼が終わっても、余震は続いています。訓練気分の子どもたちにも、動揺が広がっていきます。16時過ぎ、安全確認ができた体育館に全員避難し、全家庭に向けて学校から「保護者お迎え」依頼の一斉メールが送信されました。

お迎えの保護者、駆けつけてくださった地域の方々を見て、子どもたちの表情がやっと和らぎます。その日、学校から送信された緊急一斉メールは7通、全児童の引取完了は、夜遅くでした。電話網、交通網が麻痺する中、頼りになるのは、人間のネットワークであると痛感した長い一日が終わりました。(渡辺智子)





安済 道男さん

(横浜東Gp)

A1: 生れも育ちも横浜市磯子区です。結婚して暫く栄区に在住しましたがその後自宅に戻り現在も磯子区です。幼稚園から大学まで横浜市内で過ごしました。就職して定年まで同じ会社に勤務して2年前に定年退職しました。工学部機械科のため生産系セクションを歩きました。

定年後、これまでと違う文化に触れたくて調理師学校に1年通い調理師免許を取得しました。

A2: 経歴から工作は好きな方でボランティアをするならそういった方面がしたいと思いました。

あまり人の世話をしたり、接触するよりも物に向かって何かをしている方が適性があるように思います。

A3: 現在のところこれをしたいというものは特にありません。いろいろ見せて頂きお手伝いをさせて頂く中で見つけて行けたら良いと思っています。

限られた費用、時間、場所ですから思いの外、運営のノウハウがあるように感じられます。

A4: 現在磯子区の公共施設などの草木を手入れするボランティアの研修を受けて活動中(草刈り・剪定など)。



定年後の趣味は絵画教室と囲碁教室に通っています。

また、下手なゴルフをときどき友人とやっています。

A5: 自分で作って感動をしてほしい。見たり聞いたりするよりもやってみることが一番です。

上手いかなくても良いです、体験は自分を成長させます。今わからなくても後で解ります。

A6: 今年は親の介護などもあり非稼働会員にしてもらいました。

時間があるときには近場の杉田小や汐見台小でのお手伝いをさせて頂きます。

理事 17名／監事3名が選任されました

5月31日に開催された総会で、17名の理事、3名の監事が選任されました。任期満了により再任された理事は13名、新任の理事4名；同じく任期満了で再任された監事は2名、新任の監事1名です。

<新任理事>:

浅井三佐男(あさい みさお)、

桑原 正子(くわばらまさこ)

吉田 イチ子(よしだいちこ)

渡邊 智子(わたなべ ともこ)

<新任監事>: 郷 勝哉(ごう かつや)



6面から8面にかけて、プロフィールを掲載しています。

Q1 生まれた場所と、現在お住まいの場所、簡単な略歴。

Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと動機。

Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか
具体的なテーマでも、夢のイメージでも。

Q4 趣味や道楽は?

Q5 子どもたちに ぜひすすめたいことはなんですか?

Q6 その他付け加えたいことがあれば、ご自由にひとこと。

飯田美津子さん

(横浜北2Gp)



A1: 生まれも育ちも横須賀の海と山に囲まれた自然豊かな所です。けれど今では埋め立てが進み、子どもの頃の思い出の海は写真の中だけになってしまいました。もともと保育士だったのですが、結婚後いろいろな仕事をしながら二人子どもを育て、今は、横浜市瀬谷区に住み、地元のNPO法人で仲間たちと保育室や学童クラブ・親子のひろばなどを運営しています。

A2: 学童クラブの小学生を見ていると、自分で発案したり、やってみようとしたりすることが少なく、与えられたものがないと遊びも学習も進まない子どもが多いように感じ、集中力等も長続きしない人が増えているのが気になったので、何か好奇心をかきたてるようなものを探していたところ、たまたま区役所でたんけん工房の研修生募集のチラシを見て、「これは面白そう!」と思い受講しました。そこには講師の方が下さった少年少女のような探究心あふれる時間があり、また安田さんのたんけん工房設立時のお話を聞いて感銘を受け、いつの間にか楽しい気分になっている自分がそこにいました。

そして、「今の子どもたちがこうなっているのは(自分を含めて)周りに楽しそうに生きている大人が少ないからでは?」と気づきました。まず、おとなたちがこんな風に私は生きているんだよということを見せる、それこそが子どもたちの好奇心を掻き立て、未来への希望を見出す最大のポイントになるのではないのでしょうか。

折しも大震災にあい、多くの人の生命や今まで築いてきたものなどかけがえのないものを失い、絶望したとしても仕方がない状況の中で、それでも希望をもって生きようとしている方々とその周囲でけなげに懸命に育っていかようとしている子どもたちを報道で見るとつけますそれは確信となっていきました。

<子どもたちのためにやってあげる>のではなく、<大人たちがいきいきと活動すること>が子どもたちの道しるべになっていく、そんなスタンスで参加していけるといいなと思っています。

稲垣昭典 さん

(横浜東 Gp)



- A1: 愛知県生まれ、高校卒業後進学のため上京しそのまま就職した為、現在の住まい(横浜市金沢区)と無人の実家との二重生活となっている。
卒業後、運送会社に就職し40数年間、第二の職場を人材派遣会社で過し70歳を機に会社生活を終える。
- A2: サラリーマン生活で朝家を出て夕方帰る生活リズムが出来上がっていて、毎日が日曜日の生活にはなじむことが出来ず外に出たい希望に加えて、出来れば何か社会にご恩返しが出来ないか、しかも若い世代と一緒に過し刺激を受けたいと考えていたところ、「おもしろ科学」の存在を知るところとなった。
- A3: 三人の孫と共に楽しめることを希望しているが、幸いに孫の通う小学校での週一日のボランティアもレールに乗っているため、健康にも恵まれて二足の草鞋もこなせている。
子供が楽しむ場面作りを続けたい。
- A4: 社会人になってから始めたスキーは自己流だったが、20年ほど前からクラブにも所属して基礎からやり直した。
国内を楽しんでいたが、7年前に誘われた海外スキーでゲレンデの雄大さにすっかり魅了され年一回楽しんでいる。
- A5: 勉強も大切だが、体力作りもして、古い言葉だが文武両立し、頭でっちな人間になってほしくない、いろんな経験、失敗をして考えることの素晴らしさ、人間関係の大切さを身につけ、人を思いやる豊かな感情を持って欲しい。
日頃接触しないお友達と仲良くなれる、体験塾は素晴らしい場所です。

神谷邦子 さん

(横浜東 Gp)



- A1: 藤沢生まれの鎌倉育ちですが、中学から横浜に通学していたので、横浜の文化に育まれた、自称はまっごです。住まいは南区六ッ川です。六ッ川はハマの南アルプスと言われるように、都会とは思えない自然豊かなところです。研究補助員として働いていましたが、結婚・出産を機に家庭に入りました。子育ても一段落して、現在パート勤務と放送大学の大学生をしています。
- A2: 私も小さいころから、植物や理科室の薬品の色が大好きな理科大好き少女でした。子育ての中でも、こども達に科学の楽しさを体験させてきました。約20年のブランクを経て、再度サイエンスの世界に戻りたいと模索する中で、子供の理科離れやサイエンスカフェが話題となり、私も“サイエンスに触れ、伝える”活動してみたいと思いました。その一つの選択肢としてたんけん工房を知り、ハウツーを学ぶべく参加しました。
- A3: 科学は身近なところにあっても難しくなくて、家の中にだって沢山あるんです。不思議なこと、面白いことを見て、触って体感して欲しいです。女の子やお母さんにもサイエンスの素晴らしさを知って貰えるように、生活の中にある不思議や生物・生命の話題や実験をテーマとして扱ってみたいと思います。サイエンスカフェを催すことも1つの夢です。
- A4: 自然のものは素晴らしいので、ナチュラルな生活を心掛けることです。腰を痛めるまでは、バドミントン大好きママでした。今はサイエンスが多分趣味です。
- A5: なぜだろうと思ったら、いろいろなことに、実際に五感と体を使ってチャレンジしてほしいですね。その発見と体験は必ず子供ひとりひとりの宝物になる筈ですから。
- A6: 現在生命科学に再チャレンジ勉強中です。工房の活動にはあまり参加していませんが、還元できたらと思います。

在宅でできる事務 お願い!**主として在宅でできる事務を手伝ってくださる方**

①電話やFAXを使って情報の中継、FAX送受信。

②携帯やパソコンでメール連絡: ③会費・寄付の入金帳簿つけ、など(どれか一つか二つ)事務の仕事お手伝いいただける方を探しています。(資格=パソコンでEメールできる方、FAXある方:年齢・性別問いません)
お問合わせ、TEL/FAX 045-710-2679 khyasuda@ga2.so-net.ne.jp 安田まで

<スタッフのプロフィールつづき>



井下田 正二 さん (横浜西Gp)

A1: 生まれたところ: 愛知県。今住んでいるところ
横浜市港南区日野。

18才で戸塚に住み、その後東京(新宿、品川)
そして20年前現在のところに移住。

現在会社勤めであと1年で定年を迎えます

A2: 昨年(2010年)図書館で「科学体験活動推進スタッ
フ養成 受講生募集」のチラシを見て、とりわけ「第2
の人生を」という見出しに、心をひかれ応募しました。

A3: 子供たちと理科の楽しさを分かち合えればいいなと
思います。やってみたい分野はこれから考えますが、
化学系はパスです。

A4: このたんけん工房に参加する前に会社が主催する
ボランティア(小学生4から6年を対象にした特定
テーマの出張授業)に3年ほど参加していました。

A5: 実験を楽しむと同時に、なぜそうなるかをまず自分
で考える習慣をつけてほしいと思います。

A6: 当面は定例会など参加できない場合が多いかと思
いますが、よろしくをお願いします。



板山智行 さん (横浜西 Gp)

A1: 岩手出身 横浜10年在住です。

A2: 工房に申し込んだきっかけは、横浜市での青少年
活動中に配られたチラシに興味を持ち、自分の子供
にも勧めたかったのですが、まだ小さいのでその前
にまず自分が飛び込んでしまおうと思ったからで
す。

A3: 小さな時に作った電話やラジオの感動があるの
で、身の回りの色々な電化製品や時計、おもちゃな
どを皆で分解してみたり、簡単な電化製品を作った
りしてみたいです。

『工房では子供の興味がそそられるような大掛かり
な実験を行い、その後それをどこの家庭にもあるも
ので代用出来るような材料やコツを教えて、それ

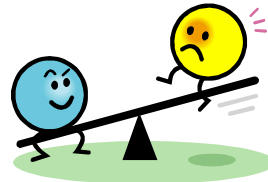
を家に帰って子供が親に説明しながらみんなで作っ
てみる』というようなイメージを理想として抱いていま
す。

A4: 趣味はシーカヤックと自転車です。

他にしている活動は、こども達やお年寄りに、気軽に楽
しめるニュースポーツなどを教える横浜市のスポーツ
普及活動のお手伝いをしています。

A5: 子供達に勧めたい事は、すぐを買ったり捨てたりせ
ずに『虫や魚は捕まえる』『ラジコンやおもちゃも作っ
てみる』『壊れたら直そうとしてみる』という過程を大
事にして欲しいです。

A6: 工房に参加させて頂いて、皆様の熱意と子供達の好
奇心に私もワクワクさせて頂いています。



岡村浩二 さん

(横浜西 Gp)

A1: 生まれ育ったのは、長野県・安曇野市で、北アルプ
スが綺麗な自然が豊かな所です。

現在は横浜市泉区在住。学生時代は仙台で4年間過ご
し、その後は、自動車会社で40年間開発業務(主に企
画・設計)に従事した。

A2: 区のスポーツセンターでおもしろ科学のちらしを見
てこれだと思った。と言うのも物離れがこのまま進む将
来を懸念していたので、おもしろ科学の理念に共感した
から。

A3: 今探している所、当面は子供たちと一緒に楽しむ
ことにしたい。

A4: 他の活動は、特にしていない。

趣味は、捕り物帳など... 読書?とゴルフ

A5: どんな事でも興味を持ってやって見る、自分に合っ
た物がそのうち発見できる。

A6: 先輩方は皆さん知識も豊富で拘りの物を持っている
のが素晴らしい又自分にとって
恐怖でもあり、羨ましくもある。
子供たちを教えるというより、
私にとっては再学習の場としたい。



河上郁夫さんから原稿を頂いていますが、今回掲載でき
ませんでした。次号に回させていただきます。
ご了承ください。